

DP・カリキュラム見直し実例 ～佛教大学、共愛学園前橋国際大学～

期限を1年延長して現場と議論、納得度を高める

佛教大学は2026年度に3つのポリシーとカリキュラムを共に改定予定だ【図表11】。きっかけは、第3期認証評価で内部質保証面の課題を指摘されたこと。当時は学生募集も不調で、全学で学生の成長を保証する体制をつくり直すことが、再起への近道と判断された。当時のポリシーやカリキュラムは、各学部学科から出されたものを質保証担当部署が必要な要件を満たすべく修正して策定。担当部署は労力がかかり、現場の納得度も低かった。その反省を生かし、今回の改定は現場との対話を重視して進めている。

カリキュラム改革委員長の貝副学長（P.36）が尊重するのは、学科ごとの思考様式だ。7学部15学科それぞれが学問分野に根差した考え方を持っているの、同じ説明をしても受け止め方に違いが出る。学科のこだわりに応じて説明や提案を変えた。反対意見が出た際は正論で押し通さず、最低限クリアすべきラインを提示して理解を求め、学科で修正してもらっているという。当初の施行予定は2025年度だったが、締め切りありきで強硬に進めても現場に浸透しないと判断、1年延長して話し合いを継続。その分、執行部も現場も納得できるポリシー、カリキュラムがつくられつつある。

共通、必修科目を増やし、全学生の質を担保

共愛学園前橋国際大学は、2023年度に学部DP、カリキュラムを刷新。さらに2026年度に大学DPを策定【図表12】。旧カリキュラムは科目が多様で、履修の自由度が高く、科目ごとに学修成果指標「共愛12の力」のどの力を育むのか当てはめて学修成果の可視化に取り組んでいた。しかし、履修の自由度の高さからDP上重要な科目を履修しないまま卒業するケースも見られ、履修のしかたによっては育成する力に偏りがあった。加えて、コース専門科目や副専攻を増やす方向で教育改革を進めた結果、科目数が肥大化。DPと関連が薄い科目の存在や、人件費の増加も問題となっていた。

刷新後は、「共愛12の力」をDPに制定。科目ごとではなく科目群ごとに、「12の力」を分類した「4つの軸」*3を割り当て、カリキュ

【図表11】佛教大学の3Pやカリキュラム見直しの経緯

2019年	第3期認証評価にて内部質保証の課題を指摘される	
2020年	「教学マネジメント指針」出される	
2022年6月	大学の現状から今後について検討する「大学改革実行会議」発足。議題は改組とカリキュラム改革。2つのタスクチームでそれぞれ検討	
	カリキュラムを検討するタスクチームの取り組み ①カリキュラムのフレームと教養・共通教育のデザインの検討：通学課程と通信教育課程のカリキュラムの関係性／遠隔教育のあり方／これからの時代に即応した新たなカリキュラムのフレームと教養・共通教育のデザイン（教養・共通教育のカテゴリ、専門教育と教養・共通教育の割合、免許・資格課程のあり方等） ②カリキュラムの具体的な検討（編成）に必要な基礎資料の収集：現カリキュラムの点検評価を行うための基礎資料の作成等	
2023年3月	タスクチームより検討結果報告 →「カリキュラム改革委員会」が発足。 具体的なカリキュラム策定に着手	「質保証推進委員会」 発足。人材養成目的、3Pの見直しに着手
2024年3月	カリキュラム（全学共通教養科目）の概要確定	
2024年4月	全学カリキュラム（初年次、学部横断、PJ科目）の実施手立てや運営上の問題の洗い出し、初年次と学部横断はWGで詳細を検討	
	委員会とやりとりしながら各学部・学科にて専門カリキュラムを検討	
2026年4月	新ポリシー、新カリキュラム始動（予定）	

*取材を基にBetween編集部にてまとめ

ラムマップやカリキュラムツリーを作成、DPとカリキュラムを整合させた。新カリキュラムは、コース専門科目を減らし、学部共通科目、必修科目を拡大。2026年度設置予定の新学部も見据え、大学として確実に学んでほしい科目を共通、必修化し、総科目数が減った分のリソースを集中投下して、DP達成の確実性を高めている。

佛教大学同様、こちらも全教職員を巻き込み、期限を1年延期して話し合いを重ねた結果、DPやカリキュラムに対する教員の納得度は高まった。コース混成のPBLを必修にした効果も相まって、教員の意識が、自コースの教育だけでなく、学部全体の教育に向くようにもなった。IRによる検証も2025年度から試行が始まり、今後、各種データに表れている学修成果、教育成果と、「12の力」との相関を分析していく予定だという。

【図表12】共愛学園前橋国際大学の新旧DPとカリキュラム

新旧	DP	科目数	カリキュラム	特徴や課題
旧	1.地域社会の諸課題への対応能力 2.国際社会と地域社会の関連性についての識見（以下略） ※学修成果の可視化用に、別途「共愛12の力」策定	480		▶多彩な科目→DPとの関連が薄い科目や手薄な分野の存在、非常勤講師の確保が課題 ▶履修の自由度が高い→DP上重要な科目を選択せずとも卒業可能 ▶学修成果は科目ごとに把握
新	「共愛12の力」 I 識見 1.共生のための知識（多様な存在が共生し続けることができる社会を築いていくために必要な知識） 2.共生のための態度（多様な存在が共生し続けることを尊重する考えや行動…（以下略）	346		▶共愛12の力をDPに ▶DPにひもづく科目を精選、手薄な計数分野科目を必修科目に追加 ▶専門科目を減らし、必修科目を増加 ▶総合的な学修成果を測る統合科目「Global Seminar」設置
成果			▶外部アセスメントの結果では、思考力が高まる等、明らかな教育効果が出ている ▶文系でも社会に必要な計数分野が習得できるカリキュラムに魅力を感じる志願者の増加 ▶コースごとの教育から、学部や大学全体の教育改善に学内の意識が変容	

*大学提供資料を基にBetween編集部にてまとめ

*3 I 識見、II 自律する力、III コミュニケーション力、IV 問題に対応する力